

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全社的な理念が掲げられており、施設全体で日々確認できている。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	一事業所としてではなく、そよ風グループとしての介護サービス理念を、職員全体で共有化し日々確認するために、毎朝令時に参加者全員で唱和している。	○ 恣意的に、朝令に参加していない職員もいるため、まんべんなく参加するように、参加する時間帯勤務者を限定する必要性を感じている。今後、参加を促したい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	現状は地域・家族にまで理念の浸透が図れていない。	○ 家族会・運営推進会議・地域を巻き込んだイベント等で、折にふれて、理念についての説明をしていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ユニフォームを着用している、していないに関わらず、外で近隣の 人に会えば、必ずこちらから声をかけるようにしている。また、回覧板を回す時に日常的な会話を心がけている。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地藏盆への協力・敬老会に参加・学区運動会等に参加し、地域の方から声をかけてもらっている。	○ 単に行事に入居者が参加するだけではなくて、職員による地域貢献があれば、さらに地域との距離が近くなると考えているので、地域の清掃・寺(東福寺の)落ち葉拾いなどを積極的に実施したい。

東山ケアセンターそよ風(かえで)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣には独居高齢者が多く、出来る事の可能性を探っている段階。	○	今後に向けて、積極的に町内役員等とのコミュニケーションを深めたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	地域への貢献度の低さを自己評価で認識しているが、まだ具体的な改善にまで取り組めていない。	○	コミュニケーションによる情報収集に力を入れる必要性を感じている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地道ではあるが、報告-実行-評価を踏まえて、サービスの向上に努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	まだ、実施出来ていないが、京都市の介護相談員制度に申請する予定。	○	介護相談員に入って頂き、外部の方の見識を知りたいと思います。自己のやり方を振り返る意味でも是非実施したい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度については既に学んできたが、現入居者についての必要性に関しての話し合いは持っていない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	制度については既に学んできた。さらに、現在まで虐待に関する懸念は発生していない。入居者が自宅から戻られた時は、入浴時にさりげなく確認はしている。		

東山ケアセンターそよ風(かえで)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は、職員2人体制を原則として、十分な時間をとり真摯に家族の質問対応をしている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者個々の意見・不満・苦情については、日々個別対応をとっている。また、家族の意見・苦情については、意見箱を設置している。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>月次の請求書発送時に「そよ風だより」を同封し、暮らしの一端が見えるようにしている。金銭管理については、家族来所時に「こづかい帳」閲覧・確認していただき、残金と一致しているか確認して頂く。</p>	<p>○</p> <p>個別化への取り組みとして、全体的な暮らしぶり等の情報ではなく、個々の写真を添えて、日頃の生活が垣間見えるように配慮したい。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や家族交流会で、意見を求めたり、不満・苦情も出していただけるとのよう、ムードづくりを進めている。</p>	<p>○</p> <p>頂いた意見には即対応し、結果についても丁寧に伝えていきたい。これを実現するには、職員間の見解を整備する必要がある。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ユニット会議や、また直接管理者・センター長に話ができる雰囲気作りをしている。</p>	<p>○</p> <p>現場の職員の意見は重要であると考えていますので、定期的に面談を設けたり、廊下で声をかけたりして、多くの意見を吸い上げていきたい。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>コンプライアンスに則ったシフト体制を整えている。</p>	<p>○</p> <p>さらに細やかな入居者対応ができるようにするには、コンプライアンスプラスαの人員体制が求められるが、ボランティアの活用など職員をフォローできる体制を目指したい。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>配慮は怠らないが、現在まだ10ヶ月でもあり、殆ど内部異動はない。個人的な馴染み関係は極力作らないようにしている。</p>	<p>○</p> <p>特定の馴染み関係は作らず、職員全員がユニットのセクショナリズムを排して、馴染みの関係が作れる方法を目指している。</p>

東山ケアセンターそよ風(かえで)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>管理者・リーダーを育てるための研修は、意識的に参加してもらっている。特に人材育成・スパージョンの方法等については、重要視している。</p>	<p>○</p> <p>外部研修を受けて、内部研修に落とし込むための計画づくりを、進めたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>交流の重要性は感じているものの、地域の同事業者との勉強会レベルの繋がりまでに発展できていない。</p>	<p>○</p> <p>顔の見える関係づくりを進めたい。デイの相談員・居宅のケアマネについては、深く地域同業者と連携を取っているが、GHについては、地域(区)に他のGHがないため、区外との連携を模索したい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>今できていることは、休憩室の充実と飲み物等の確保程度で、これ以外についてはまだ取り組めていない。</p>	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>年2回の人事考課において、できるだけ公平に評価している。</p>	<p>○</p> <p>給与に反映させるには、年2回の機会があるが、給与反映以外でも、役割分担等でステップアップさせたい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の個別面接で、本人の意向を可能な限り確認している。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の個別面接で、家族の主訴を可能な限り聴き、できること、できないことを説明している。</p>	<p>○</p> <p>入居までの間に家族は苦勞しているの、すべてホームがしてくれると期待しがちであるため、「できない」ことを丁寧に説明したい。</p>

東山ケアセンターそよ風(かえで)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	GHの性質上他のサービス併用はあまり現実的ではないケースが多いが、他のサービス利用の際には、極力協力している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居面接の段階でほぼ納得された方が多いので、慣らしサービスの提供はない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	積極的に、家事・掃除もしている。して頂き、先輩に教えていただく場面も多い。特に食事では、お叱りをうけたり、味付けの指示が出たりしている。	○	入居者に教わるような、関係を多く作りたいと思っている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	現在職員全員が育っている訳ではなく、中心的な職員がこの関係を作っている状況。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	まだまだ、不十分である。できている家族と難しい家族関係もあり、この点が突破できればさらに良い関係を築くことができると思える。	○	時間をかけて、まず中心的メンバーからアプローチしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症の方なので外部からの訪問者はまず家族に確認しチェックしてから迎えるようにしているが、馴染みの関係には配慮に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合う方、あわない方を把握して座席の場所等を設定している。		

東山ケアセンターそよ風(かえで)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在まだ、これに該当するケースはないが、入院退居等については、配慮したい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に問いかけ本人の希望を聞く。困難な場合危険でない限り自由に行動していただく。	○	ゆっくりマンツーマンでコミュニケーションが取れるように、個人レクを行いたい。買い物・散歩・喫茶店等
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の資料と家族訪問時に問いかけて情報収集するように努めている。	○	家族訪問時に声かけで、心を開いて話されるようなムードづくりをしている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	常に9名の行動所在を把握、行動を止めるのではなく、自由に家庭にいるように過ごして頂き、危険は事前に察知するようにする。	○	その日その時により変化がsるため、常に見守りその思いを察知するように努めている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスと家族訪問時に希望を聞き、行動を制御するのではなく、自由に生活していけるような計画作成		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	スタッフ全員が現状を把握するように、伝達・報告を速やかに言い、早い対応ができるような体制をとっている。	○	スタッフ同士のコミュニケーション・連絡ノートにより全て全員が把握できるようにしている。

東山ケアセンターそよ風(かえで)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況は介護日誌に詳細を記載。また、特記事項は連絡ノートに記入し、スタッフ間で共有。	○	日々の記録でマイナス面を赤で記入するなど、見逃さないように工夫したい。現在はまだ、できていないが、日々の記録に注意点が隠されていることが多いので、しっかり確認できる体制を取れるように目指したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日勤帯には、デイの看護師の対応・日曜日にはデイの浴室でゆったりと入浴し温泉気分に入って戴くなど、事業所の他の機能を活用して日々の刺激作りをしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	学区の区民運動会参加・学区社会福祉協議会の敬老会参加。文化施設としては、東福寺の記念行事参加など、可能な機会を活用している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている			
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議をとおして地域包括とは協働関係にある。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回協力医療機関の訪問診療を受けている。	○	協力医療機関以外に、近隣の医院等(歯科・眼科・耳鼻科)へ必要に応じてスタッフ介助で受診している。今後も可能な限り勤務体制に影響しない程度に、続けたい。

東山ケアセンターそよ風(かえで)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい医師ではあるが、専門医との連携は現在ない。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	日勤帯であれば、デイの看護師が常駐しているので、対応している。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	提携病院以外に、近隣の協力病院もあるので、入院も含めて相談することは可能である。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループの他の施設では、ターミナルまで対応しているので、ケース学習として現在、方針共有化を進めている。	○	家族と本人の希望を考慮して、GHとしてのぎりぎりまでの対応を検討したい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	おおむねは、上記に同じ。あくまでも、チームケア重視で、役割を担いたい。		
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族に了解を得たうえで、生活に必要な情報提供をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録は施錠ラテラルで保管。言葉かけについては、その方の生活歴等から対応を考えているが、職員によって若干バラツキがあるのも否めない。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に、本人の意思を尊重している。	○ 職員の力量が試される点なので、研修等で認識を高めた
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間や、規則で追う一日ではなく、入居者の時間に職員が寄り添っていると受け止めている。	○ 本来的なGHの意義を確認しながら、業務にあたりたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	現在は、店を指定する方ではなく、家族が馴染みの店に連れていかれる場合がある。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所の仕事は日々関わりたい方が多いので、職員が割り振りをしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	特に希望されるものはないが、問いかけで思い出された嗜好品等については、希望に添うようにしている。飲酒・喫煙も支援する方向。	

東山ケアセンターそよ風(かえで)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々の排泄パターンを記録により、覚えておく。スタッフの声かけ「私は、トイレに今行きますが、あなたはいかがですか」などのさりげない声かけをしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	夜間は職員の体制上危険なため、午後または、午前で設定している。その日の気分で時間帯を選ばれている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の行動を重視して、健康に悪影響と判断できる場合は声をかけるが、基本は自宅生活の延長として個々の生活を支援。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	過去と現在がほとんど違う状態で、現在の楽しみや、気晴らしを見つけるため、概念にとらわれず、常に問いかける。	○	職員がいろんなことにチャレンジして誘い、一緒に楽しむことにより、新しい楽しみや発見がある。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出かけたり、お茶を飲みに出たりお金を自ら使う機会を設けているが、保管・管理はセンターでしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	すべてに個別対応はできていないが、可能な限り戸外に出でいただくようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節のいい時に、家族同行の日帰り旅行を実施している。		

東山ケアセンターそよ風(かえで)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	物品・が送られてきた時、本人がお礼の電話をされる。不穏時は家族と電話にて会話。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	友人、遠方の親戚の訪問時居室内に、イスを持ち込み談話を楽しまれている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室・ユニット玄関はオープンだが、GH入口は施錠。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に所在の確認を実施		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	異食等おのある方もおられるので、特に注意しているが、概ね見守りと、危険予知でカバーできている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の状況をスタッフが把握しているので、対応は可。		

東山ケアセンターそよ風(かえで)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	研修実施時に参加の職員のみ実行可。他マニュアルあり。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回に避難訓練、消防訓練を実施。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	家族の訪問時、に適宜話し合う。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員間での情報の共有化はもちろん、必要と判断した場合は家族へ一報し、相談する。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員の知識と力量にバラツキがあるため、リーダー確認・指示を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給・食事の工夫・運動等適宜行い、極力薬に頼らないようにしている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	うがいを拒否される場合は、お茶だけでも飲んで頂くようにしている。		

東山ケアセンターそよ風(かえで)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	何度でもカロリー摂取に配慮しながら、食べたい物を食べていただく。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い、うがいを特に実行		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	常に、調理器具はハイター消毒をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	普通の家庭を想定して、花・げた箱・スリッパたてなどを置き、利用者手作りの座布団をおいている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全を優先するが、日常生活の場として、家庭として居心地よく過ごせるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コーナーが数か所あり、自由に座られる。		

東山ケアセンターそよ風(かえで)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほぼ、本人自ら工夫して居心地よい空間を造っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に、居室やリビングをチェック。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に、表札をつけ、トイレは大きく表示。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	わかる方には、できるだけ失敗感をなくせるような支援 ¹ ができるように工夫している。	○	認知のレベルに応じた、対応方法をとる。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	近隣の関係から、ベランダの使用は避けているが、ホーム玄関周辺は広いので、ベンチを置き季節のいい頃には、外気浴を楽しめるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

東山ケアセンターそよ風(かえで)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

※基本はさくらに同じ。楓の特色として認知レベルの高い方が多く、対応・言葉遣い